

お菓子は密封できる容器に入れて、直射日光の当たらない、涼しい所に保管しましょう。

■どんな虫がお菓子につくのでしょうか

人間が食べて“おいしい”お菓子ですから、虫たちがお菓子を好きになっても、不思議ではありません。穀類・穀粉につくのと同じ蛾類（ノシメダラメイガ）の幼虫や甲虫類（コクヌストモドキやノコギリヒラタムシ）がお菓子を食べる虫であり、春から秋にかけて活動し産卵します。

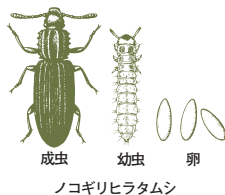
ノシメダラメイガの卵は長径0.5ミリ、数日でふ化して1ヶ月経つと体長1センチの終齢幼虫に成長します。幼虫はお菓子の匂いに敏感で鋭い大あごを持っているためアルミ箔やプラスチックフィルムを食い破って侵入することも可能です。蛾の場合は、加害するのは幼虫ですが、甲虫類は幼虫、成虫ともお菓子を食べます。



ノシメダラメイガ



コクヌストモドキ



ノコギリヒラタムシ

■いつ、どこで虫がつくのでしょうか

ほとんどのお菓子は高温で処理され、近代的な設備と衛生管理の行き届いた工場生産されますから、製造工程で虫がつく余地はまずありません。工場を出てから家庭で消費される間に侵入するのがほとんどです。お菓子につく虫は、どこにでもいることが多く、輸送中はもちろん、家庭でも環境を清潔にし、保存に十分ご注意ください。

■ご家庭で虫からお菓子を守る方法は

虫は製造工程や販売過程だけでつくとはいえません。虫の事故を調べると、消費者の手に渡ってから、家庭でついたと思われる例が認められます。

虫は一般家庭にも棲息しています。時には、かなりたくさん発生していることもありますので、住居を清潔にして虫を防がねばなりません。台所の戸棚などには数多くの食品が保管されていますので、虫が潜伏し繁殖していることが多いようです。虫は匂いに引き寄せられ、潜伏場所から移動して商品に侵入し、短時間で繁殖することがあります。特に、一度開封した商品は注意が必要です。従ってご家庭においても虫の防除に十分の関心と注意が必要なわけです。



ご家庭では、次のことを心がけて下さい。

- ①清潔で商品管理の行き届いたお店から買う
- ②必要な量だけ買い、なるべく早く食べる
- ③開封後は、密封できる清潔な容器に保存する

なお、お買い求めのお菓子里に虫が発生したり異物が混入していた場合は、お手数でもそのメーカーまたはお買い上げの小売店、当協会にお申し出下さい。

■もしも、誤って虫を食べてしまったら…

万一、虫が混入しているのに気づかず誤って食べても、人体には直接の影響はないと言われてはいますが、ご心配の場合には、お医者様にご相談下さい。

監修 日本昆虫学会名誉会員 農学博士 安富和男氏

おかしにつく虫・編

お菓子につく虫を

知っていますか？！



販売店様へのお願い

たった一匹の小さな虫がお菓子についただけで、お店の信用が食いつぶされます。虫害防止は、メーカー、流通、販売店様を通じての一致協力が必要ですが、日常、次のことにご注意下さい。

- ①商品管理の行き届いた仕入れ先から仕入れて下さい。
- ②仕入れた順に販売し「先入れ先出し」に心がけて下さい。
- ③お店の中は、いつも清潔に保って下さい。
- ④もしも、虫がついている商品を見つけたら、他の商品から離し、店内をよく掃除して下さい。

★商品は、直射日光の当たらないところに陳列して下さい。



BETTER BUSINESS
日本菓子BB協会

お菓子に関連する企業が、お客様との「対話と心のふれあい」を目的に、1971年に設立した協会です。

お菓子に関する問題について、「お客様」と「企業」と「行政」の接点に立ち、公正にお応えする活動を行っています。

◎菓子についてのことなら、何でもお気軽にご相談ください。

Tel.03-3432-0385 Fax.03-3578-8527
〒105-0004 東京都港区新橋6-9-5 JBビルディング